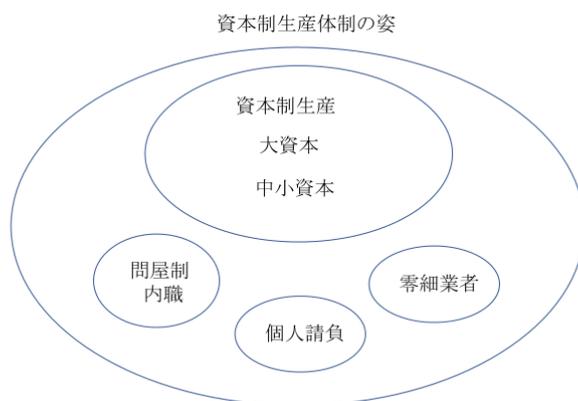




\*資本制生産体制が存在する姿とは\_\_\_\_\_

- ・雇用される労働者の出現:資本制生産体制の本格的な成立へ
- ・資本制生産体制の発展と共に、被雇用者の増加:個人請負の減少
- ・工業化:作業場:同じ場所で働くこと:作業の単純化
- ・ところが、大きな作業場の周りには、零細業者・個人請負が存在
- ・純粋な資本制生産体制は存在しない
- ・資本制生産体制は、そのみの生産体制で常に成り立っているのではない。  
必ず、その周りに他の生産体制・古い生産体制を利用し、存在させている。



\*『資本論』の記述:周りに古い生産過程を直接包摂せず利用する

「[近代的]マニュファクチュアは、それ自身のかたわらに、分散した手工業的経営および家内経営を  
広範な基礎として存続させた。これらの労働部門における剰余価値の大量生産は・・・人間に可能  
な最大限の労働時間と結びついた、かろうじて露命をつなぐに必要な最小限の労賃のおかげであ  
ったし、いまもそうである」(I-S.495)

「家内労働の領域では、いつでも自由に利用できる産業予備軍がきわめて組織的に大量培養され、  
一年のある期間中はまったく非人間的な労働強制によって多くの命が奪われ、また他の期間中は  
仕事不足によって落ちぶれる」(I-S.502)

\*個人請負の論点\_\_\_\_\_

- ・個人請負の古典的形態・ルーツ:農業部門:労働隊:ギャングシステム :『資本論』から

「一時的または局地的労働不足は・・・女性および児童を農耕に強制的に引き入れ、労働年齢を絶  
えず引き下げ・・・男性農村労働者を過剰化しその賃銀を押し下げる新たな手段となる。・・・この  
“悪循環”のみごとな成果—いわゆる労働隊制度(ギャング・システムまたは徒党システム)—がさか  
んに行われている。・・・労働隊は、10人ないし4、50人の・・・女性、男女の年少者(13ないし18  
歳)、・・・男女の児童(6ないし13歳)で構成されている。・・・[労働隊長]は労働隊を募集[し、]・・・  
農場から農場へ移動していき、・・・年間6—8ヵ月も働かせる」(I-S.722-3)

※農業部門での記述:資本制生産体制と言えるのかどうか、前資本制生産体制か。労働隊の親方  
は後の派遣業者である

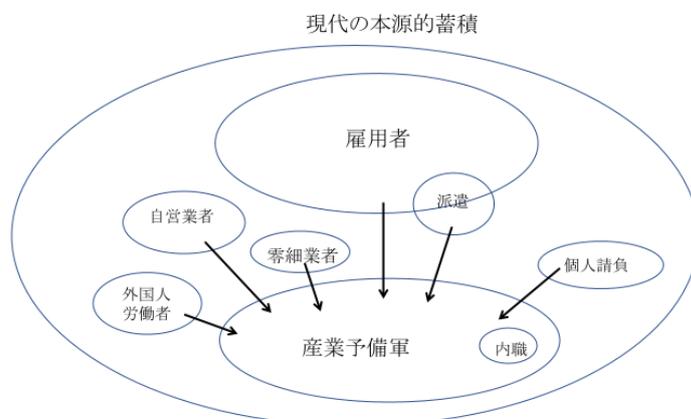
- ・戦後も存在した内職:個人請負 江口栄一の研究 \*高度成長まで、多くの家庭で内職をしていた:  
\*戦前の内職の姿:『路傍の石』:少年吾一の母の夜の封筒貼りと吾一の失敗  
\*戦後の内職の姿:アイスクリーム紙容器づくり
- ・零細企業・業者の存在:資本制の外部に存在:資本制生産を支える役割へ

## \* 個人請負への流れ

- ・一人親方:建設業:古典的形態 現代まで続く姿: 親方制
  - \*現代では、様々な職種で、多くの人々がフリーランスとして働いている
- ・今日の雇用への政策:流動化、規制緩和 集団的労使関係から個別的労使関係へ 自己責任
- ・個人請負がフリーランスとして増加している: コロナ禍における働き方の変化
- ・デジタル社会における働き方の個人化が、さらに個人請負を促進
- ・今増えつつある雇用者から個人請負への流れ:葬祭業ベルコ、はかりのタニタ
- ・個人請負により、企業が雇用責任・使用者責任を全うしない方向への進展:
- ・長い歴史の中で、労働者は雇用責任、使用者責任を迫及し、その成果が工場法であり、労働法である。
- ・資本と労働の関係: 雇用の変化 : 間接雇用を推進: 派遣・個人請負
- ・派遣労働の解禁は、その一里塚、個人請負化は、その究極の到達点と言える。

## \* 常に行われる「本源的蓄積」

- ・本源的蓄積:資本制生産の前段階ではなく、常に別の生産体制から労働力が供給されている。  
また、国内だけでなく、国外からの供給されている。



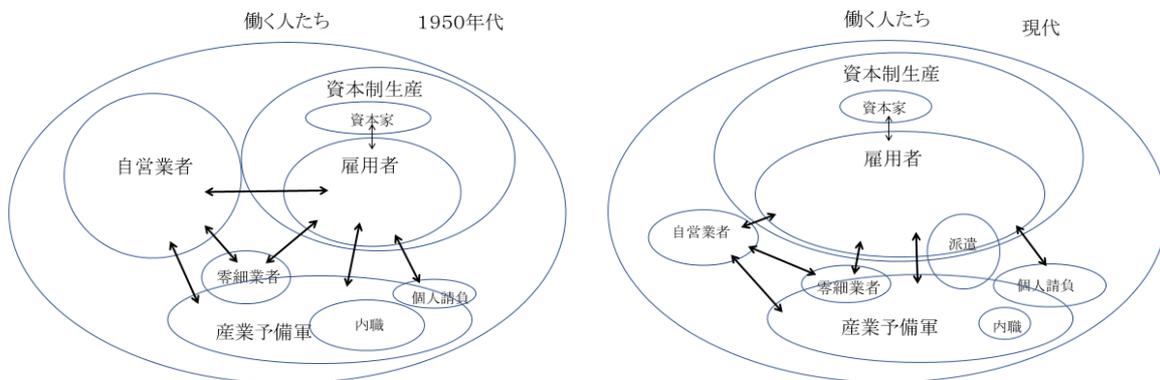
- ・別の生産体制からの労働力供給の受け皿になるのは、直接的な資本・企業ではなく、労働力供給を専門とする機関・業者が担っている。ここに、派遣労働力として供給業者の存在がある。
- ・派遣労働力として働くことが出来ない人は、手っ取り早くネットの個人請負を行うが、ここにも業者が存在する。さらに、マッチングプラットフォームで個人請負の仕事に走る
- ・戦前は、産業予備軍・相対的過剰人口は、農村に逃げ場があった
- ・戦後も、高度成長期までの出稼ぎ、ここまでは農村に産業予備軍が存在、  
高度成長期に都市・工業地に人口が集中、それは現在も続く、地方の過疎化
- ・現代の資本の対応措置:外国人労働者に産業予備軍・相対的過剰人口を求める。これが今後はもっと本格化する ※日本には移民はないと言われているが、戦前の朝鮮人、現在の中国・ベトナム人等
- ・産業予備軍・相対的過剰人口の視点とともに、また本源的蓄積論から、非正規労働者及び・個人請負をもっと論じる必要がある: ※問題提起のみ

※日本の資本制生産体制の成立と、その後の展望

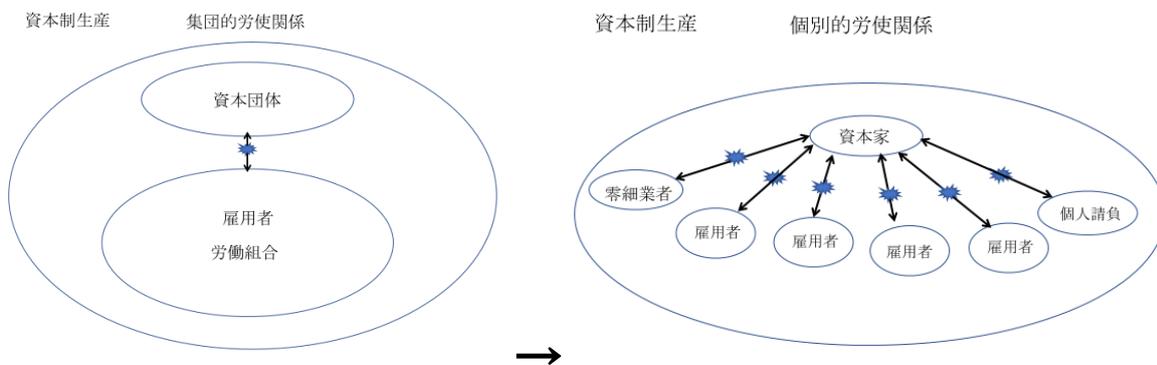
・戦後、1955年頃の雇用者は就業者のうち4割強であった。

その後の高度成長期が、日本における資本制生産体制が完成へと向かう時期であり、

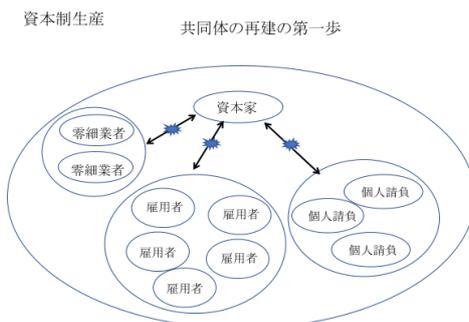
やがて8割以上の働く人々が労働力となっていき、現在が資本制生産体制の一つの頂点ではないか。



・「資本 対 労働」ももとは集団的な関係：それが現代、個別的な関係にされている



・共同体の再建:その一歩：これからが、資本制生産体制に対抗する生産体制が、本当に芽を出し成長していく時期に入っていくのではないか。



・その対抗する生産体制は、大多数の働く人である労働者が協働して成立する

＊資本制生産体制から次の生産体制へ、その萌芽

- ・個人請負の共同体 : ギルド(職人組合)の再建 → 労働組合へ
- ・ニューヨーク市「フリーランサー賃金条例」労働者の賃金を守るための条例  
フリーランサーズ・ユニオンによる制度政策要求活動と運動の結果 2016-11
- ・ヤマハのユニオン結成:ヤマハ英語講師の労働組合 → 音楽講師の労働組合

ヤマハ委任講師「実態は労働者」



2019-01-20 朝日新聞

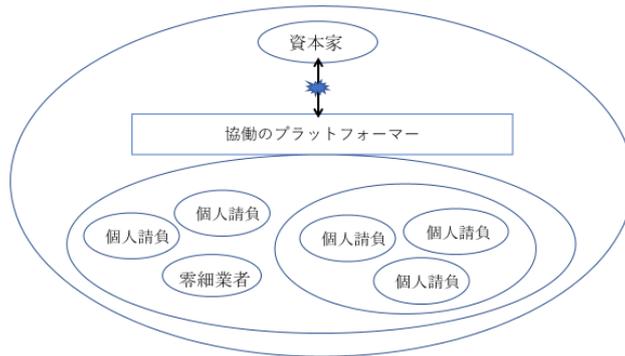
ヤマハ音楽講師 ネット使って団結



2021-01-18 朝日新聞

- ・本来の「雇用によらない働き方」へ
- ・協同労働の可能性: すでにベースはできている
- ・派遣業を労働者自ら協働で運営する
- ・マッチングプラットフォームを労働者自ら協働で運営する

資本制生産      個人請負の共同体



- ・協同労働の共同体: 個別・分散的に運営される、さらにその連合体を形成していく
- ・いろいろな共同体の連合体が、資本制生産体制の対抗措置、凌駕する生産体制になっていく
- ・当初は、「資本」概念に基づき、出資・配当、  
そのうち「資本」が減り「協同・協働」に基礎を置く生産体制へ ※楽観的未来社会論
- ・派遣労働の解禁・個人請負化による使用者責任の回避は、自らを守る力を持つことと共に、  
国の労働政策の転換、働く者の権利・保護を求める運動が必要である。

以上です